

令和 7年度 北海道蘭越高等学校

第1学年 シラバス ～年間授業計画～

教科	科目	担当	頁
国語科	現代の国語	青山 望	2
	言語文化	青山 望	4
地理歴史科	地理総合	八木橋 拓史	6
公民科	公共	小菅 敬祐	8
数学科	数学Ⅰ	岡本 敏弘・佐藤 崇力	10
理科	化学基礎	田端 修	12
保健体育科	体育	八木橋 拓史	14
	保健	八木橋 拓史	16
芸術科	音楽Ⅰ	深澤 正之	18
英語科	英語コミュニケーションⅠ	南部 光養・大橋 満希	21
家庭科	家庭総合	浅川 寛子	23
情報科	情報Ⅰ	斉藤 貴志	25

教科	国語	科目	現代の国語
単位数	2単位	教科書	現国 707 新編 現代の国語」(伏修館書店)
学年 必 選	1年次 必履修科目	副教材	新編 現代の国語 学習ノート」(伏修館書店) ジャンプアップ高校漢字問題集 改訂版」(東京書籍)
教科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ①生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 ②生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 ③言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。		
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
評価の観点	知識・技能【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【態】
趣 旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身につけている。
履修上の注意	この科目は「前期 第Ⅰ期」「後期 第Ⅲ期」に評価します。 ①授業で使用するもの…現代の国語教科書、ファイル、現代の国語学習ノート、ジャンプアップ高校漢字問題集、chromebook →配布されたプリントはすべてファイルしてください。 ②忘れ物…授業が始まる前に必ず申し出てください。 ③授業…ペアワーク、グループワークをとおして思考を深めていきます。 ④評価…学習活動への取り組み、ワークシート、小テスト(漢字) 単元テスト		

年間指導計画				時数		評価計画			
学期	月	単元・学習内容	学習活動・学習のねらい	話・聞	書・読	知	思	態	評価方法
前期 (第Ⅰ期)	4	科目オリエンテーション マインドマップで自己紹介	科目について理解を深める。	1					学習活動への取り組み ・ワークシート ・小テスト ・単元テスト
		1 こぼをひらく 変わる」ことを楽しもう コミュニケーションは技術だ	・これからの学習で取り組みたいこと、興味のあることについて、自分の考えを見つめた話し合ったりする。 ・筆者のコミュニケーションに対する考え方を読み取る。	6		○	◎	○	
		2 日本語を使いこなす こぼの使い分け 正しく書く 文を整え、文をつなぐ	場面や目的に応じて適切な言葉を選ぶ。 ・正しく適切な表記について理解する。 ・あいまいな文や長くてわかりにくい文を避け、簡潔でわかりやすい文を書く。	1		◎	◎	○	
		2 日本語を使いこなす 伝わるように話そう	相手に伝えたいことを、わかりやすく整理して話す。	2		◎	◎	○	
		3 わかりやすく説明する 説明の仕方を捉えよう ナンバーワンか、オンリーワンか 生きることと食べることの意味	問題提起とその答えを意識し、文章全体の構成をつかむ。 ・文章全体の構成や接続表現の役割をとらえる。	6		○	◎	○	
		3 わかりやすく説明する 料理レシピを書く	・目的や読者に応じて、わかりやすい説明になるよう情報を整理する。	1		○	◎	○	
		3 わかりやすく説明する ショートのスピーチをしよう	・大切なことを落とさずに、正確に書く。	2		○	◎	○	
		5 4 聞く力を育む 聞き取りのレッスン ミニインタビューをしよう	・自分にとって必要な情報を意識して、メモをとりながら聞く。 ・必要な情報を相手から引き出せるよう質問しながら聞く。	2		○	◎	○	
		4 聞く力を育む 聞き取ったことをまとめよう	聞き取った情報を整理したり編集したりし、わかりやすく効果的な文章を書く。	1		◎	◎	○	
		5 論理を読み取る 論理の展開を読み取ろう オカビの胃袋はいくつか 商品と贈り物のちがいは 水の東西	筆者の主張とその根拠を意識しながら読む。 ・具体例の働きをとらえ、具体と抽象の関係を考えながら読む。 ・対比の関係を意識しながら読む。	6		○	◎	○	
	6 読書の広場 本のPOPを作ろう	・POPに必要な情報を整理し、伝えたいことを明確にする。 ・POPの表現の工夫を知り、効果的な紹介文を書く。	2		○	◎	○		

後期 第Ⅲ期	9	6 伝え合いのレッスン 対話のレッスン テーマを決めて話し合おう	・コミュニケーションにおける言葉以外の要素の大切さを知り、対話に生かす。 話し合いの目的を意識し、目的に沿った話し合いの進め方を考える。	2			○	◎	○	学習活動への取り組み ・ワークシート ・小テスト ・単元テスト
		7 説得力を高める 意見文の基礎を学ぼう 反対意見を想定した意見文を書こう	・意見文の基本的な書き方と、構成のしかたを知る。 意見と理由を備えた基本的な意見文を書く。		5		○	◎	○	
		説得力を高める ミニ討論会をしよう	・自分の考えが効果的に伝わるように、根拠を明確にして効果的に主張する。 相手の主張と根拠の関係をとらえて反論する。	3			○	◎	○	
	10	8 情報と向き合う 情報を吟味しながら読もう 情報の力関係 世界は私にほぼえんでいる どこもかしこもプラスチック！	・図との関係に注意しながら、文章を読み取る。 ・文章とグラフとの関係に注意しながら、文章を読み取る。			8	○	◎	○	
		3 情報と向き合う レポートを書こう	・テーマを決め、適切な方法で情報を集める。 集めた情報を根拠として、説得力のあるレポートをまとめる。		4		◎	◎	○	
		9 他者を動かす 魅力的な企画書を書こう	・企画書に必要な要素を知り、見やすく、わかりやすい企画書をまとめる。		3		◎	◎	○	
	1	9 他者を動かす プレゼンテーションをしよう	・聞き手の心を動かし、目的を達成するために、構成や発表のしかたを工夫する。		5		◎	◎	○	
		9 他者を動かす 相手を動かす依頼状を書こう	・相手の気持ちを動かすような依頼状を書く。		2		◎	◎	○	
		10 社会に目を向けて 自分の考えを深めながら読もう 何のために「働く」のか 自分の考えをつくるために	・筆者の問題意識と主張を、具体例に気をつけながら読み取る。 ・文章の構成のしかたや具体例の役割に注意しながら、筆者の主張を読み取る。 ・筆者の主張をふまえて、自分の考えを深める。			5	○	◎	○	
	3	10 社会に目を向けて 社会との関わりを見つめよう	・社会に対して自分の考えをお互いに伝え合うことができる。 ・相手の考えを聞いて自分について振り返り、考えを深める。	3						
領域別授業数小計				20	31	19	授業時数合計 70			

教科	国語		科目	言語文化				
単位数	2単位		教科書	言文 706 新編 言語文化」(大修館書店)				
学年 必 選	1年次 必履修科目		副教材	新編 言語文化 学習ノート」(大修館書店)				
教科の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ①生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 ②生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 ③言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。						
科目の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
評価の観点		知識・技能【知】		思考・判断・表現【思】		主体的に学習に取り組む態度【態】		
趣 旨		生涯にわたる社会生活に必要な 国語の知識や技能 を身に付けるとともに、我が国の 言語文化に対する理解 を深めることができるようにしている。		書くこと、読むこと」の各領域において、 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力 を伸ばし、 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる ようにしている。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度 を身につけている。		
履修上の注意		この科目は、前期(第Ⅱ期)後期(第Ⅳ期)に評価します。 ①授業で使用するもの…言語文化教科書、ファイル、言語文化学習ノート、chromebook →配布されたプリントはすべてファイルしてください。 ②忘れ物…授業が始まる前に必ず申し出てください。 ③授業…ペアワーク、グループワークをとおして思考を深めていきます。 ④評価…ワークシート、学習活動への取り組み、小テスト、単元テスト						
年間指導計画				時数		評価計画		
学期	月	単元・学習内容	学習活動・学習のねらい	書	読(書)	読(近)	知 思 態 評価方法	
前期 (第Ⅱ期)	4	科目オリエンテーション	科目について理解を深める。	1				
	6	【現代文編 読む】 1 ことばと出会う 漢字と仮名の使い分け」阿辻哲朗	・日本語の表記の特色について、筆者の主張をとらえる。 ・表記に興味をもち、調べたり考えたりする。			5	○ ◎ ○	学習活動への取り組み ・ワークシート ・小テスト ・単元テスト
		【古文編 読む】 2 古文に親しむ 古文への招待 児の空寝」 十二の「子」文字」	・古文作品を読む上での基礎的な知識・技能を身につける。また、登場人物の行動及び心情の移り変わりを読み取る。 ・誰の発言かに注意し、物語の内容を読み取る。 ・漢字の読みと日本の言語文化についての理解を深める。		6		◎ ◎ ○	
		【現代文編 読む】 3 文化を見つめる 足し算の文化」デービット・アトキンソン	・日本文化の特徴について、筆者の主張をとらえる。 ・身のまわりの例を探しながら、日本文化の特色について理解を深める。			6	○ ◎ ○	
		【漢文編 読む】 1 漢文に親しむ 訓読のきまり 格言 再読文字	・漢文を読む上で必要な基礎的な知識・技能を身につける。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つ。		6		◎ ○ ○	
	【漢文編 読む】 2 現代に生きることば 守株」 蛇足」 借虎威」	・漢文についての知識技能を用い、故事成語から読み取ることのできる教訓を理解する。		6		◎ ○ ○		
8								

後期 (第Ⅳ期)	11	【漢文編 書く】 ★ 自分流故事成語を作る	・故事成語の性質を理解し、自身の経験や考えを 故事成語として表現する事ができる。	4			○	◎	○	学習への取り組み ・ワークシート ・小テスト 単元テスト
	12	【古文編 読む】 2 随筆を楽しむ 『徒然草』	・音読して古文の読みに慣れ、文章の内容を正確 に読み取る。 ・作者のものの見方や感じ方について、自分の考え をもつ。	7			○	◎	○	
		【古文編 読む】 2 随筆を楽しむ 『枕草子』	・音読して古文の読みに慣れ、文章の特色を理解 する。 ・作者のものの見方や感じ方について、自分の考え をもつ。	7			○	◎	○	
	1	【古文編 読む】 3 物語の広がり 『伊勢物語』	・登場人物の行動や場面の展開を正確に把握す る。 ・和歌に表れた心情を読み取り、本文の中で和歌 が果たしている役割を考える。	8			○	◎	○	
	2	【現代文編 読む】 4 物語を受け継ぐ 『羅生門』芥川龍之介	・語彙を理解し、小説の構成をとらえ、登場人物の 心情の変化を読み取る。 ・元になった古典作品との比較をふまえて、内容の 解釈を深める。 ・正義について、自分の体験や思いが効果的に 伝わるよう 構成や展開、文体などの表現の仕方 を工夫する。		10		○	◎	○	
	3	【現代文編 読む】 5 ことばと生きる 『祖母が笑うということ』又吉直樹 『ことばは光』福島智				4		○	◎	
領域別授業数小計				5	40	25	授業時数合計 70			

教科	地理歴史	科目	地理総合					
単位数	2単位	教科書	地総 706 高等学校 地理総合 世界を学び、地域をつくる」 第一学習社)					
学年 必 選	1年次 必履修科目	副教材	地理総合ノート」 第一学習社) 新詳高等地図」 帝国書院)					
教科の目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。							
科目の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。							
評価の観点	知識・技能【知】		思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【態】				
趣 旨	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。					
履修上の注意	①ワークはテスト終了時に必ず集めます。それ以外も提出を求める場合があります。 ②教具を忘れた場合は授業が始まる前に職員室へ報告しに来てください。 ③授業には教科書・ワーク・資料集・クロームブックを準備して下さい。							
年間指導計画				評価計画				
学期	月	単元・学習内容	学習活動・学習のねらい	時数	知	思	態	評価方法
前期 (第Ⅰ期)		シラバス説明 ワークテスト 世界の国々・日本の都道府県)		1				授業態度 発問評価 グループワーク 教具準備 ワーク内容 テスト
	4	第1編 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 球面上の世界と地図	地図を持たない人々の生活を想像し、地図の有用性に気づくとともに、利用しやすい工夫が現在まで続けられていることを理解する。	5	○	○	◎	
	5	小テスト①		1	◎	◎		
		2節 国家の結びつきとグローバル化する社会	現代世界を構成する基本単位の国家とは何かを理解し、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化したかを時系列で理解する。	4	○	○	◎	
		小テスト②		1	◎	◎		
前期 (第Ⅱ期)	6	第2編 国際理解と国際協力 1章 生活・文化の多様性と国際理解	世界の自然環境は地域的に大きく異なることを、気候の面からとらえる。	4	○	○	◎	授業態度 発問評価 グループワーク 教具準備 ワーク内容 テスト
		小テスト③		1	◎	◎		
	7	衣」から見る世界 食」から見る世界 住」から見る世界	その地域の自然環境と、歴史や文化といった社会環境の影響を色濃く受けた世界の特色ある生活文化を、さまざまな衣食住の事例を通して学ぶ。	7	○	○	◎	
		小テスト④		1	◎	◎		

後期 (第Ⅲ期)	8	暮らしを豊かにする産業 宗教と人々の暮らし	世界の特色ある生活文化にはどのようなものがあるか関 心を持ち、地域固有の自然環境や歴史、風土に基づい て形成されたと同時に、グローバル化のもとで新たな変化 が生じていることを学習する。	6	○	○	◎	・授業態度 ・発問評価 ・グループワーク ・教具準備 ・ワーク内容 ・テスト
	9	暮らしを楽しむための文化 多様性に富んだ世界の人々との共 生						
		小テスト⑤		1	◎	◎		
		2章 地球的課題と国際協力 1節 持続可能な社会を目指して	5つのPの枠組みを活用して、持続可能な開発目標 （SDGｓ）の考え方を学び、地理で学習する地球的課題が 教科をこえた探究的な課題につながることを理解する。	1	○	○	◎	
	10	2節 すべての人々の尊厳と平等 が守られた社会に向けて	現在、直面している地球的課題にはどのようなものがある かに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ 方が異なることを、人口問題、食料問題、居住・都市問 題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体 的な事例を通して理解する。	5	○	○	◎	
		3節 自然と調和した豊かな社会に 向けて	身の回りで見られる再生可能エネルギーについて、その メリットとデメリットを比較して、持続可能な社会に必要な エネルギー構成を構想することができる。	3	○	○	◎	
後期 (第Ⅳ期)		小テスト⑥		1	◎	◎		・授業態度 ・発問評価 ・グループワーク ・教具準備 ・ワーク内容 ・テスト ・発表評価
	11	4節 現役世代と将来世代のため の地球	地球環境問題のうち、酸性雨・地球温暖化・森林破壊と 生物種の減少・砂漠化を例に学び、世界的な取り組みと 地域に応じた取り組みが必要であることを理解する。	3	○	○	◎	
		5節 平和で公正な社会に向けて	NGOやNPOによる国際協力や、CSRにもとづいた企業の 国際協力、消費者の立場で自ら取り組む国際協力など、 さまざまな形のパートナーシップについて理解できる。	4	○	○	◎	
		小テスト⑦		1	◎	◎		
	12	第3編 持続可能な地域づくりと私 たち	日本に暮らす人々の生活は、気候や局地的な気候、地 形などに影響を受けていることを、実体験に基づいて理 解する。 自然災害に備えるためには日常の備えが重要であり、減 災に向けた地域防災力の向上が重要であることを理解す る。					
	1	1章 自然環境と防災		9	○	○	◎	
		小テスト⑧		1	◎	◎		
	2	2章 生活圏の調査と地域の展望 ①地域調査の方法	地域調査について、積極的な調査を実施できるよう、地 域調査の必要性を理解し、地域調査の基本を身につけ る。	2	○		◎	
		地域調査の実施	地域調査の一環として、資料収集・現地調査を行い、的 確な統計地図やグラフを作成して報告書をまとめる。	8		○	◎	
	3							

教科	公民	科目	公共	
単位数	2単位	教科書	公共 711 高等学校 新公共」第一学習社)	
学年 必・選	1年次 必履修科目	副教材	新公共ノート 第一学習社) クローズアップ公共」第一学習社)	
教科の目標		社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおりを育成することを目指す。 (1)選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。		
科目の目標		人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。		
評価の観点	知識・技能【知】		思考・判断・表現【思】	
趣 旨	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。		現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	
履修上の注意	ワークは適宜回収しチェックしますので、いつでも提出できる状態にしておいて下さい。 教具を忘れた場合は授業が始まる前に報告しに来てください。			
年間指導計画				
学期	月	単元 学習内容	学習活動 学習のねらい	時数
前期 (第Ⅰ期)		授業開き シラバス説明		1
	4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち	社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを理解する。	5
	5	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。	3
		第3章 公共的な空間における基本的原理	古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。	3
		まとめ		2
前期 (第Ⅱ期)	6	第2編 第1章 法的な主体となる私たち 法や規範の意義と役割	法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。	4
	7	契約と消費者の権利・責任	契約が対等な当事者間の合意といえるための条件を理解する。	4
	8	司法参加の意義	個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。	4
		まとめ		1
評価計画				
知 思 態				
評価方法				
記述の評価 発言・行動の観察評価				
記述の評価				
記述の評価 発言・行動の観察評価				
記述の評価				

後期 (第Ⅲ期)	9	第2章 政治的な主体となる私たち 政治参加と公正な世論形成	民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解する。 出前講座検討中	8	○	○	○	記述の評価 発言・行動の観察評価
	10	国際社会と国家主権	主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解する。	4	○	○	○	
		日本の安全保障と防衛	日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解する。	3	○	○	○	
	11	国際社会の変化と日本の役割	国際平和を実現するために必要な日本の役割を理解する。	4	○	○	○	
		まとめ		1	◎	◎		
		第3章 経済的な主体となる私たち 雇用と労働問題	少子高齢化による労働力不足が問題となるなか、活発な経済活動と労働者の働きやすさを共に成り立たせるために必要なことを理解する。	3	○	○	○	記述の評価 発言・行動の観察評価
後期 (第Ⅳ期)	12	社会の変化と職業観	グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどう考えていけばよいか理解する。	2	○	○	○	
		市場経済の機能と限界	公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。	3	○	○	○	
		金融のはたらき	経済において、金融市場はどのような役割を果たしているのか理解する。	2	○	○	○	
	1	財政の役割と社会保障	少子高齢化が進むなかで、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。	4	○	○	○	記述の評価 発言・行動の観察評価
		経済のグローバル化	経済がグローバル化するなかで、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきか考える。	2	○	○	○	
	2	まとめ		1	◎	◎		記述の評価 発言・行動の観察評価
		第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち ケーススタディ	持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を行う。	6	◎	◎		
	3							

教科	数学		科目	数学Ⅰ				
単位数	4単位		教科書	数Ⅰ 714 新編 数学Ⅰ」数研出版)				
学年 必 選	1年次 必履修科目		副教材	新課程 3TRIAL 数学Ⅰ」数研出版)				
教科の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3)数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						
科目の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ①数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ②命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 ③数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						
評価の観点		知識・技能【知】		思考力・判断力・表現力【思】		主体的に学習に取り組む態度【態】		
趣 旨		数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。		命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。		
履修上の注意								
年間指導計画					評価計画			
学期	月	単元・学習内容	学習活動・学習のねらい	時数	知	思	態	評価方法
前期 (第Ⅰ期)	4・5	多項式の加法減法 多項式の乗法	多項式の加法減法の計算ができる。 指数法則や公式を用いて計算することができる。 置き換え等の工夫をしながら計算ができる。	8	◎	◎	○	授業態度 発問評価 宿題提出 小テスト 単元テストなど
		因数分解	公式を利用して因数分解ができる。	8	◎	◎	○	
		実数 根号を含む式の計算	平方根の性質について理解し、根号を含む加減乗除の計算ができる。	9	◎	○	○	
		単元テスト①		1	◎	◎		
前期 (第Ⅱ期)	6・7	不等式の性質	不等式の性質を理解している。	1	○			授業態度 発問評価 宿題提出 小テスト 単元テストなど
		1次不等式	1次不等式を解くことができる。不等式の文章題を立式し、解くことができる。	11	◎	◎	○	
		絶対値を含む方程式・不等式	絶対値の意味を理解し、方程式・不等式を解くことができる。	3	◎		○	
		集合 命題と条件 命題とその逆・対偶。裏 命題と証明	集合の性質を理解し、活用できるようにする。 命題の真偽の意味を理解し、見極めることができる。 逆・対偶。裏を理解し、真偽を見極めることができる。 対偶や背理法を用いて、証明することができる。	12	◎	◎	◎	

前期 (第Ⅱ期)		関数とグラフ 2次関数のグラフ	1次関数のグラフや 2次関数のグラフの形状を理解し、 グラフをかくことができる。	4	◎		○	授業態度 発問評価 宿題提出 小テスト 単元テストなど
	8	単元テスト②		1	◎	◎		
	9	2次関数の最大・最小 2次関数の決定	平行完成をすることで、放物線の平行移動を求めることができる。定義域の有無の最大値・最小値を求めることができる。2次関数の決定条件に応じて式を使い分けることができる。	14	◎	◎	◎	
		単元テスト③		1	◎	◎		
後期 (第Ⅲ期)		2次方程式	2次方程式の解や実数解の個数を判別式を利用して求めることができる。	6	◎	○		授業態度 発問評価 宿題提出 小テスト 単元テストなど
	10	2次関数のグラフとx軸の位置関係	2次関数とグラフのxの共有点の位置関係を理解し、共有点の座標や、判別式を用いて、共有点の個数を求めることができる。	6	◎	○	○	
	11	2次不等式	2次関数のグラフを利用し、2次不等式を解くことができる。 身近な例における2次不等式の文章題を立式し、解くことができる	14	◎	◎	◎	
		単元テスト④		1	◎	◎		
後期 (第Ⅳ期)	12	三角比 三角比の相互関係三角比の拡張	三角比の1つの値が与えられたとき、残りの2つの値を求めることができる。角を鋭角から鈍角まで拡張し、値を求めることができる。	10	◎	◎	○	授業態度 発問評価 宿題提出 小テスト 単元テストなど
	1	正弦定理 余弦定理	向かい合う辺と角が与えられたとき、正弦定理を用いて、辺の長さや外接円の半径、角度を求めることができる。 2辺とその間の角が与えられたとき、残りの辺の長さを余弦定理を用いて、求めることができる。	6	◎	○	◎	
		正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積	条件に応じた方法で、三角形の面積を求めることができる。	4	○	◎	○	
	2	データの整理 データの代表値 データの散らばりと四分位数	ヒストグラム、平均値、中央値、四分位数、について理解する。また箱ひげ図をかけるようにする。	11	◎	○	○	
		単元テスト⑤		1	◎	◎		
		分散と標準偏差	分散や標準偏差の意味を理解し、値を求めることができる。	4	◎		○	
	3	データの相関	散布図から、相関関係を考察する。 また相関係数を求め、相関の傾向を把握する。	4		◎	○	

教科	理科	科目	化学基礎					
単位数	3単位	教科書	化基 704「化学基礎」(集教出版)					
学年 必 選	1年次 必履修科目	副教材	なし					
教科の目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ① 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 ② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ③ 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。							
科目の目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ① 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ③ 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。							
評価の観点	知識・技能【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【態】					
趣 旨	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。					
履修上の注意	◇単元ごとにファイルを集めます。 ◇板書を書き写すときは色ペンを使ったり、見やすい工夫をしてください。							
年間指導計画								
学期	月	単元・学習内容	学習活動・学習のねらい	時数	知	思	態	評価方法
前期 (第Ⅰ期)	4	序章 物質と化学	身のまわりの物質に着目し、我々の生活が物質に支えられていることを理解する。物質について調べることにより、さまざまな物質も特徴によって分類することができることを理解する。	3	◎	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・単元テスト
		第1章 物質の構成 1節 物質の探究 1 物質の分類と性質	混合物と純物質の違いを理解し、自然界の物質の多くが混合物であることがわかる。また、混合物を目的の物質に分離するには、物質の性質に合わせた方法があることを知る。	3	○		○	
		2 物質と元素	元素の意味を知り、純物質のなりたちを理解する。	4	○	◎		
	5	3 物質の三態と熱運動	粒子の熱運動と温度及び物質の三態変化との関係について理解する。	3	○	○	○	
6		2節 物質の構成粒子 1 原子の構造	原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解する。同位体の定義とその性質を理解する。	4	◎	◎		・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・単元テスト
	2 イオンの生成	陽イオン、陰イオンの生成のしくみを理解する。	5	○	○			
	3 周期表	元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。	4	○		○		

前期 (第Ⅱ期)	6	第2章 物質と化学結合 1節 イオン結合 1 イオン結合	陽イオンと陰イオン間の静電的引力によりイオン結合が形成されることを理解する。	3	◎	○		・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・単元テスト
	7	2 イオン結晶	イオン結晶の組成式のつくりかたやイオン結晶の性質を理解する。	3		○	○	
	8	2節 共有結合と分子間力 1 共有結合と分子間力 2 共有結合からなる物質	分子中の原子の結合および分子の構造を表す方法を理解する。	6	◎	○		
		3節 金属と金属結合 1 金属結合と金属 2 身のまわりの金属	金属元素の結合と性質を理解する。また、種々の金属について理解する。	2	○	○	○	
		4節 化学結合と物質 1 結晶の分類	それぞれの化学結合によってできた結晶について、その性質や構成粒子などを比較し、理解する。	3	○	○		
		2 化学結合と身のまわりの物質	それぞれの化学結合でできた代表的な物質について理解する。	1	○		○	
後期 (第Ⅲ期)	9	第3章 物質の変化 1節 物質質量と化学反応式 1 原子量と分子量・式量	非常に小さな質量の原子や分子の質量は、 12C を基準にした相対質量で表されることを知る。また、原子量は、同位体の各原子の相対質量の平均値であることを理解する。	3	◎			・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・単元テスト
		2 物質質量	原子量や分子量などにグラム単位をつけた質量中には、同数の原子や分子などが含まれることを理解させ、その具体的な数値が 6.0×10^{23} 個で、この粒子の集団を 1mol ということを知る。	6	◎			
	10	3 溶液の濃度	溶液の濃さを表す方法を学習し、質量パーセント濃度、モル濃度の計算を習得する。	2	○	○	○	
		4 化学反応式	簡単な化学反応式とイオン反応式が書けるようになる。化学反応式の係数比は、物質質量比（気体の場合には、さらに体積比）を表していることを理解し、化学反応式によって、反応物・生成物の質量・体積が求められることを理解する。	6	○	◎	◎	・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・単元テスト
		2節 酸と塩基 1 酸と塩基	酸・塩基の定義を理解し、酸性・塩基性についても理解する。また、酸と塩基の価数と、酸と塩基の強弱とは、直接関係しないことを理解する。	2	◎	○		
		2 水素イオン濃度とpH	水素イオン濃度とpHとの関係を知り、pHの値で、水溶液の酸性度・塩基性度がわかることを理解する。	3	○	○		
後期 (第Ⅳ期)	11	3 中和反応と塩	酸と塩基が反応すると互いの性質を打ち消し、塩を生成することを理解し、また、塩の分類と塩の水溶液の液性を理解する。 H^+ と OH^- とは1:1で反応することを知り、また、中和滴定の計算を理解する。	12	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・単元テスト
	12	3節 酸化還元反応 1 酸化と還元	酸素、水素、電子の授受に基づく定義を理解する。とくに、酸化還元反応が電子の授受による反応であることを理解する。	6	◎	○	○	
	1	2 酸化剤と還元剤	酸化数の求め方、酸化数の変化と酸化・還元の間関係を理解する。また、酸化剤・還元剤の定義を知り、両者の反応が酸化還元反応であること理解する。	8	○	○		
	2	3 酸化還元反応の起こりやすさ	金属の酸化されやすさの尺度であるイオン化傾向について学習し、個々の金属のイオン化傾向と反応性の関係を探る。	7	◎	○	○	
	3	4 身のまわりの酸化還元反応	日常生活や社会との関わりの例として、電池や金属の精錬を理解する。	6	○		○	

教科	保健体育		科目	体育
単位数	3単位		教科書	保体 701 現代高等保健体育」(伏修館書店)
学年 必 選	1年次 必履修科目		副教材	現代高等保健体育ノート」(伏修館書店)
教科の目標		体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ① 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 ② 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う ③ 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う		
科目の目標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ① 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 ② 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う ③ 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う		
評価の観点		知識・技能【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【態】
趣 旨		運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身につけている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わう事ができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。
履修上の注意		①特別な理由がない限り、本校指定のジャージ・ハーフパンツを着用すること。 ②体調管理のために可能な限り、飲み物・着替え・タオルなどを持参すること。 ③破損・怪我防止のために腕時計は取り外し、爪は切っておくこと。 ④体調不良などで見学する場合は早めに職員室に報告しに来て、授業ではクロームブックを持参すること。		
年間指導計画				
学期	月	単元・学習内容	学習活動・学習のねらい	時数
前期 (第Ⅰ期)	4	オリエンテーション・集団行動	・シラバスの説明を通じて、授業の流れを理解する。 ・集団行動を通じて統一感や協調性を身につけ、授業を効率よく進められるようにする。	1
	5	球技 (バドミントン)	球技 (バドミントン) ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。	18
前期 (第Ⅱ期)	6	球技 (フットボール)	球技 (フットボール) ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。	16
	7	体育理論	・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解する。	7
	8			
評価計画				
知 思 態				
評価方法				
知識の筆記テスト 技能の観察評価 思考のタブレット記述評価 態度・発言の観察評価				
知識の筆記テスト 技能の観察評価 思考のタブレット記述評価 態度・発言の観察評価				
知識の筆記テスト 技能の観察評価 思考のタブレット記述評価 態度・発言の観察評価 ワークの内容評価				

後期 (第Ⅲ期)	9	体づくり運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動に対する興味、関心を高める。 健康の保持増進や体力の向上を図る。	5	○	○	○	知識の筆記テスト 思考のタブレット記述評価 態度・発言の観察評価
		陸上競技（長距離）	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解する	14	○	○	○	知識の筆記テスト 技能の観察評価 思考のタブレット記述評価 態度・発言の観察評価
	10	体づくり運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動に対する興味、関心を高める。 健康の保持増進や体力の向上を図る。	5	○	○	○	知識の筆記テスト 思考のタブレット記述評価 態度・発言の観察評価
後期 (第Ⅳ期)	11	選択① 球技（バレーボール） 器械体操 ダンス	球技（バレーボール） 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 器械体操 技ができる楽しさや喜びを味わい、運動観察の方法や体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技できるようにする。 ダンス みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法などを理解するとともに、創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスのそれぞれ特有の表現や踊りを身につけて交流や発表をする。	17	○	○	○	知識の筆記テスト 技能の観察評価 思考のタブレット記述評価 態度・発言の観察評価
	1	選択② 球技（バスケットボール） 武道（柔道）	球技（バスケットボール） 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 武道（柔道） 技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開する。	17	○	○	○	
	2							
	3	新体力テスト	新体力テストの事前理解、実施、分析	5				

教科	保健体育	科目	保健					
単位数	1単位	教科書	保体 701 現代高等保健体育」(大修館書店)					
学年 必・選	1年次 必修科目	副教材	現代高等保健体育ノート」(大修館書店)					
教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ① 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 ② 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ③ 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。							
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ① 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 ② 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 ③ 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。							
評価の観点	知識・技能【知】		思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【態】				
趣 旨	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。				
履修上の注意	①ワークはテスト終了時に必ず集めます。それ以外も提出を求める場合があります。 ②教具を忘れた場合は授業が始まる前に職員室へ報告しに来てください。 ③授業には教科書・ワーク・資料集・クロームブックを準備して下さい。							
年間指導計画								
学期	月	単元・学習内容	学習活動・学習のねらい	時数	知	思	態	評価方法
前期 (第Ⅰ期)	4	単元 現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち	・さまざまな健康の考え方について理解する。 健康を成り立たせている要因について理解する。	1	◎	○	◎	授業態度 発問評価 ・グループワーク 教具準備 ・ワーク内容 ・テスト
		2 私たちの健康のすがた	・わが国の健康水準の変化とその背景について理解する。	1	○	◎	◎	
		3 生活習慣病の予防と回復	・生活習慣病の種類と要因について理解する。 生活習慣病の一次予防、二次予防について理解する。	1	◎	○	◎	
	5	4 がんの原因と予防	・がんの種類や原因について理解する。 がんの一次予防と二次予防について理解する。	1	◎	○	◎	
		5 がんの治療と回復	・がんのおもな治療法や緩和ケアについて理解する。 がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について理解する。	1	○	◎	◎	
		テスト①		1	◎	◎		
前期 (第Ⅱ期)	6	6 運動と健康	・健康と運動の関係について理解する。 ・目的に応じた健康的な運動のしかたについて理解する。	1	○	○	◎	授業態度 発問評価 ・グループワーク 教具準備 ・ワーク内容 ・テスト
		7 食事と健康	・食事と健康の関係について理解する。 健康的な食事のとり方について理解する。	1	○	○	◎	
		8 休養・睡眠と健康	・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について理解する。 健康と睡眠の関係及び健康により睡眠のとり方について理解する。	1	○	○	◎	
	7	9 喫煙と健康	・喫煙者やその周囲の人に起こる害について理解する。 喫煙対策について、個人と社会に分けて理解する。	1	◎	○	◎	
		10 飲酒と健康	・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を理解する。 飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について理解する。	1	◎	○	◎	
		11 薬物乱用と健康	・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について理解する。 薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策について理解する。	1	◎	○	◎	
	テスト②		1	◎	◎			

後期 (第Ⅲ期)	8	12精神疾患の特徴	精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について理解する。 現代社会における精神保健の課題を理解する。	1	◎	○	◎	授業態度 発問評価 ・グループワーク 教具準備 ・ワーク内容 ・テスト
		13精神疾患の予防	精神疾患を予防する方法について理解する。 精神疾患の早期発見のために必要なことについて理解する。	1	○	○	◎	
		14精神疾患からの回復	精神疾患の治療について理解する。 精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か理解する。	1	○	○	◎	
	9	15現代の感染症	感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて理解する。 新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ理解する。	1	◎	○	◎	
		16感染症の予防	感染症の予防対策について3原則を理解する。 感染症への個人と社会の対策について理解する。	1	○	◎	◎	
		17性感染症・エイズとその予防	性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について理解する。 性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて理解する。	1	◎	○	◎	
	10	18健康に関する意思決定・行動選択	・意思決定・行動選択に影響を与える要因について理解する。 ・健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について理解する。	1	○	◎	◎	
		19健康に関する環境づくり	社会環境の健康への影響について理解する。 ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について理解する。	1	○	○	◎	
		テスト③		1	◎	◎		
後期 (第Ⅳ期)		2単元 安全な社会生活 1事故の現状と発生要因	・事故の実態と被害の実態について理解する。 ・事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて理解する。	1	○	○	◎	授業態度 発問評価 教具準備 ・ワーク内容 ・小テスト ・技能評価
	11	2安全な社会の形成	安全のために必要な個人の行動について理解する。 ・すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について理解する。	1	○	○	○	
		3交通における安全	・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について理解する。 ・交通事故における責任を3つに分けて理解する。	1	○	○	○	
		4応急手当の意義とその基本	・応急手当の意義について理解する。 ・傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントを理解する。	1	○	○	◎	
	12	5日常的な応急手当	・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について理解する。 ・実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当をおこなう	1	○	◎	◎	
	1	6心肺蘇生法	・心肺蘇生法の方法と手順について理解する。	1	◎	○	◎	
		テスト④		1	◎	◎		
	2	心肺蘇生法 実技	学んだ理論を実技において実践する	3	○	○	◎	
	3	1年間のまとめ	・1年間学んだ事をクロームブック・ワークを使用し、まとめる	3		○	◎	

教科	芸術		科目	音楽 I				
単位数	2単位		教科書	音 I 701 音楽 I Tutti(教育出版)				
学年 必 選	1年次 必履修科目		副教材	なし				
教科の目標		芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ① 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。 ② 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。 ③ 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。						
科目の目標		音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ① 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 ② 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 ③ 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。						
評価の観点		知識・技能【知】		思考・判断・表現【思】		主体的に学習に取り組む態度【態】		
趣 旨		・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。		音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。		主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		
履修上の注意		◇ギター（学校にあります）を使用します。						
年間指導計画					評価計画			
学期	月	単元・学習内容	学習活動・学習のねらい	時数	知	思	態	評価方法
前期 (第Ⅰ期)	4	オリエンテーション ―未知なる音楽の世界を求めて―	親しみやすい J-POP の歌を、二部合唱の楽しみを味わいながら高校の音楽学習への意欲を養う。また、自分にとっての音楽の存在を再認識するとともに様々な音楽に自ら積極的に関わり、音楽を幅広く様々な視点から捉えようとする態度を養う。	3	○	○	○	・歌唱
		イメージをもって歌おう ―夏の思い出」のヒミツを手掛かりに―	中学校の既習教材である「夏の思い出」の楽曲の魅力を探る学習を通して、曲に対する自己のイメージを豊かにしたり、他者の音楽表現に共感したりしながら歌唱表現を創意工夫する手立てを学ぶ。	2	○	○	○	・歌唱
	5	日本歌曲を歌おう ―言葉とフレーズの関わりに着目して―	日本語の抑揚や間、語感、歌詞としてのまとまりが旋律の流れやフレーズにどのように表され、曲想を生み出しているかに関心をもち、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。	3	○	○	○	・歌唱
		言葉を生かして旋律をつくろう ―日本語の言葉の特性に基づいて―	日本歌曲を歌おう」の学習成果を踏まえて、日本語の言葉の特性に関心をもち、抑揚、アクセント、リズムなどの言葉の特徴を感じ取り、自己のイメージをもって旋律をつくる。	2	○	○	○	・創作
	6	西洋音楽の源流を耳でたどろう ―中世・ルネサンスの音楽―	キリスト教と結びついて発展してきた西洋音楽の源流を中世からルネサンスの音楽の鑑賞と文化的・歴史的背景の学習で辿り、そのよさや美しさを自ら味わって聴く。	2	○	○	○	・鑑賞

前期 (第Ⅱ期)	6	歌の旅に出ようI ーイタリアの民謡や歌曲ー	イタリア語の言葉の特性と旋律やリズム、曲の構成などとの関わりに関心を持ち、言葉の抑揚や言語のもつ質感を捉えながら表情豊かに歌う	3	○	○	○	歌唱
		歌の旅に出ようII ー英語のライムを感じてー	英語の言葉の特性と旋律やリズム、曲の構成などとの関わりに関心を持ち、言葉の抑揚や言語のもつ質感を捉えながら自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。	3	○	○	○	歌唱
		旋律に合う和音を選ぼう ー和音、和声ー	ヴォイス・アンサンブルを学習する前段階として、和音、和声を学習する。また、言葉を生かして旋律をつくろうの学習成果を活用し、旋律に合う和音を選んで合唱に編曲する方法を学習する。	2	○	○	○	創作
	7	アンサンブルを楽しもう ーテーブル・ミュージック&ヴォイス・アンサンブルー	他者との調和を意識したり、ヴォイス・アンサンブルの特徴を生かしたりしながら、自分たちのイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。また、体の様々な部位を使って音色を工夫したり、構成を工夫したりしながら表したいイメージをもってテーブル・ミュージックをつくって演奏する。	2	○	◎	○	歌唱 創作
		夏季休業前の音楽学習のまとめ	夏季休業前の音楽学習のまとめとして歌唱の実技試験を行い、学習内容の定着度を確認する。また、これまでの音楽学習を振り返って自己の課題を確認し、8月以降の取り組みを考える。	2	○	◎	○	歌唱
	8	芸術の秋、音楽の秋に向けて	季節の雰囲気に合わせて歌を、二重唱や二部合唱の楽しさを味わいながら2学期の音楽学習への意欲を養う。また、夏季休業中につくった作品を紹介文とともに発表し、互いに批評し合いながら、各作品のよさや美しさを自ら味わって聴く。	3	○	◎	○	歌唱 鑑賞
後期 (第Ⅲ期)		自分がつくった旋律で変奏曲をつくろう ー音楽を形づくっている要素のはたらきと効果ー	次の題材である変奏曲の魅力を探求する学習の前段階として、音楽を形づくっている要素について学習する。また、1学期に学習した言葉を生かして旋律をつくろう、夏休みの課題として取り組んだ循環コードで音楽をつくろうの成果を活用して要素の働きを変化させて変奏曲を創作する。	2	○	○	○	創作
	9	変奏曲の魅力を探ろう ーバガニーニが残した名変奏曲ー	音楽の根本的な技術である変奏の技法に関心を持ち、主題の変化や作品の特徴が音楽の構造とどのように関わっているかを理解し、他の変奏曲と比較して聴くことにより音楽表現の共通性や固有性について考える。	2	○	○	○	鑑賞
		古の音楽に思いをはせよう ー雅楽、悠久の響きー	雅楽の楽器の音色や奏法、楽器の構造、管弦の響きに関心を持ち、雅楽固有の特徴が日本人の音感覚や美意識、他の文化・歴史と関わりながら育まれてきたことを理解し、そのよさや美しさを自ら味わって聴く。	3	○	○	○	鑑賞
		アンサンブルを楽しもう	ギターの奏法を身に付けるとともに技能の習熟度に応じた楽曲の音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動の楽しさを味わう。	4	○	◎	○	器楽
	10	オーケストラの魅力を探ろう ー二つの旋律から広がる音楽ー	オーケストラの様々な楽器の音色や響き、またボレロのリズムの繰り返しに乗せた二つの旋律が様々な楽器やその組み合わせによって展開されながらもたらず表現上の効果を理解し、そのよさや美しさを自ら味わって聴く。	2	○	○	○	鑑賞
		吹奏楽の魅力を味わおう ー鯨のモチーフが紡ぎ出す雄大なドラマーー	吹奏楽の様々な楽器の音色や響き、また繰り返し現れるモチーフの変化と曲想や表現上の効果との関わりを理解し、そのよさや美しさを自ら味わって聴く。	2	○	○	○	鑑賞
	11	歌の旅に出ようIII ードイツ歌曲の魅力ー	ドイツ語の言葉の特性や曲にふさわしい発声を意識し、アクセントや子音・母音の扱い、語感の違いなどを生かして自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。	3	○	○	○	歌唱 鑑賞
		交響曲の魅力を探求しよう ーベートーヴェン最後の交響曲ー	ベートーヴェンの交響曲第9番第4楽章を通して、オーケストラの響きや、ソナタ形式において主題が展開されたり再現されたりするおもしろさを味わいながら聴く。	2	○	○	○	鑑賞

後期 (第Ⅳ期)	12	混声合唱を美しく響かせよう	混声合唱の響きを味わいながら他者との調和を意識して歌う。また、曲想が歌詞の内容や作曲者の思いなどによってもたらされていることを理解しながら歌唱表現を創意工夫する。	4	○	◎	○	歌唱鑑賞
		冬季休業前の音楽学習のまとめ	冬季休業前の音楽学習のまとめとして器楽アンサンブルと合唱の発表、独唱のテストを行い、学習内容の定着度を確認する。また、これまでの音楽学習を振り返って自己の課題を確認し、1月以降の取り組みを考える。	2	○	◎	○	歌唱器楽
	1	名曲プレゼンテーション —さまざまな時代のピアノ曲を聴こう—	季節の雰囲気に合わせて歌を楽しみながら3学期の音楽学習への意欲を養う。また、冬季休業中に作成した紹介文を使ってミニ・コンサートを行い、時代や作曲者の違いによる音楽の特徴を感じ取りながら曲や演奏について根拠をもって批評する。	3	○	○	○	鑑賞
		物語と音楽との関わりに注目しよう —総合芸術における音楽の魅力—	オペラやミュージカルなどの総合芸術において物語と音楽が関わり合いながらどのような表現上の効果をもたらしているか、音楽と他の文化が互いにどのように影響を合って発展してきたかを考える。	3	○	○	○	歌唱鑑賞
	2	世界のさまざまな音楽の魅力Ⅰ —和楽器の音と世界の楽器の音—	各自が選択した和楽器の表現活動を通して日本の楽器の奏法を学び、音色や奏法の特徴を感じ取る。また、諸民族の楽器と日本の楽器との比較を通して音楽表現や音楽文化の固有性、共通性を考える。	4	○	○	○	器楽鑑賞
		世界のさまざまな音楽の魅力Ⅱ —世界の声の音楽—	世界の諸民族の様々な声の音楽から音楽表現の多様性を捉えるとともに、諸民族の声の音楽と日本民謡の比較を通して音楽表現や音楽文化の固有性、共通性を考える。	4	○	○	○	歌唱鑑賞
	3	コンサートを開こう —音楽Ⅰのまとめとして—	1年間の音楽学習のまとめとしてコンサートを企画実施する。音楽Ⅰで学習した教材から選択し、クラス全体での合唱や器楽アンサンブルをしたりしながら、音楽活動の喜びや楽しさを味わう。また、オリエンテーション時に学習した「あなたにとって音楽とは」が、音楽Ⅰの1年間の学習を経てどのように変容したかを考える。	3	○	○	○	歌唱器楽創作鑑賞

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅠ
単位数	3単位	教科書	C I 701 『AllAboard! English Communication I 』(東京書籍)
学年 必 選	1年次 必履修科目	副教材	『AllAboard! English Communication I BRIDGEWORKBOOK』(東京書籍) 夢をかなえる英単語 新ユメタン0中学修了～高校基礎レベル』(アルク) Zoom ズーム総合英語 THIRD EDITION』(第一学習社)
教科の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考え等を的確に理解したり適切に表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ①外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 ②コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 ③外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		
科目の目標	英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと、やり取り、話すこと・発表、書くことの五つの領域（以下この節において「五つの領域」という）別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、教科の目標の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、教科の目標の(3)に示す資質・能力を育成する。 ①聞くこと ア 日常的话题について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 ②読むこと ア 日常的话题について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 ③話すこと・やり取り ア 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いた・読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。 ④話すこと・発表 ア 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いた・読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。 ⑤書くこと ア 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いた・読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。		
評価の観点	知識・技能【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【態】
趣 旨	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
履修上の注意	授業で使用了プリンRは、ファイルに綴じて保管してください。 ファイルの提出を求めることがあります。		

年間指導計画					評価計画			
学期	月	単元 学習内容	学習活動 学習のねらい	時数	知	思	態	評価方法
前期 (第Ⅰ期)	4	Pre-Lesson1 My Name is Ito Neko Pre-Lesson2 I Like Junk Food!	b動詞と一般動詞について、その肯定文・否定文・疑問文の語順を理解し、活用することができる。	2	○	◎	○	授業態度 発問評価 ワークシート提出 小テスト 単元テスト パフォーマンステスト
		Lesson 1 Breakfast around the World	過去形の文について、その文構造を理解し、活用することができる。	3	◎	○	◎	
			世界の食文化について書かれた本文を読み、情報を整理しながら要点を理解することができる。また、好きな食べ物について、英語で述べることができる。	3	○	◎	◎	
	5	Lesson 2 Australia's Cute Quokkas	進行形の文について、その文構造を理解し、活用することができる。	4	◎	○	○	授業態度 発問評価 ワークシート提出 小テスト 単元テスト パフォーマンステスト
			オーストラリアに生息している野生動物について書かれた本文を読み、情報を整理しながら要点を理解することができる。また、好きな動物について、英語で述べることができる。	4	○	◎	○	
		単元テスト		2	◎	◎		
前期 (第Ⅱ期)	6	Lesson 3 A Train Driver in Sanriku	助動詞の文について、その文構造を理解し、活用することができる。	4	◎	○	○	授業態度 発問評価 ワークシート提出 小テスト 単元テスト パフォーマンステスト
			三陸鉄道の運転士について書かれた本文を読み、情報を整理しながら要点を理解することができる。また、ある場所への行き方とそこでできることについて、英語で述べるすることができる。	4	○	◎	○	
	7	Lesson 4 A Miracle Mirror	to不定詞の文について、その文構造を理解し、活用することができる。	3	◎	○	○	授業態度 発問評価 ワークシート提出 小テスト 単元テスト パフォーマンステスト
			南米のボリビアについて書かれた本文を読み、情報を整理しながら要点を理解することができる。また、行ってみたい場所について、英語で述べることができる。	3	○	◎	○	
	8	Lesson 5 Learning from the Sea	動名詞の文について、その文構造を理解し、活用することができる。	4	◎	○	○	授業態度 発問評価 ワークシート提出 小テスト 単元テスト パフォーマンステスト
			長浜高校水族館部について書かれた本文を読み、情報を整理しながら要点を理解することができる。また、将来の夢について、英語で述べることができる。	4	○	◎	○	
後期 (第Ⅲ期)		単元テスト		3	◎	◎		
	9	Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period	受け身の文について、その文構造を理解し、活用することができる。	5	◎	○	○	授業態度 発問評価 ワークシート提出 小テスト 単元テスト パフォーマンステスト
			浮世絵師、歌川国芳について書かれた本文を読み、情報を整理しながら要点を理解することができる。また、好きな絵について、英語で述べることができる。	4	○	◎	○	
	10	Lesson 7 A Diary of Hope	比較の文について、その文構造を理解し、活用することができる。	6	◎	○	○	授業態度 発問評価 ワークシート提出 小テスト 単元テスト パフォーマンステスト
			アンネ・フランクについて書かれた本文を読み、情報を整理しながら要点を理解することができる。また、関心のある人物について、英語で説明することができる。	4	○	◎	○	
後期 (第Ⅳ期)		単元テスト		2	◎	◎		
	12	Lesson 8 A Door to a New Life	現在完了形の文について、その文構造を理解し、活用することができる。	10	◎	○	○	授業態度 発問評価 ワークシート提出 小テスト 単元テスト パフォーマンステスト
			さまざまなロボットについて書かれた本文を読み、情報を整理しながら要点を理解することができる。また、人の生活を豊かにするロボットについて考え、英語で提案することができる。	10	○	◎	○	
	2	Lesson 9 Fighting Plastic Pollution	分詞の文について、その文構造を理解し、活用することができる。	7	◎	○	○	授業態度 発問評価 ワークシート提出 小テスト 単元テスト パフォーマンステスト
			環境問題について書かれた本文を読み、情報を整理しながら要点を理解することができる。また、人の生活を豊かにするロボットについて考え、英語で提案することができる。	6	○	◎	○	
		単元テスト		2	◎	◎		
	3	Lesson 10 Pigs from across the Sea	関係代名詞の文について、その文構造を理解し、活用することができる。	6	◎	◎	○	授業態度 発問評価 ワークシート提出 小テスト 単元テスト パフォーマンステスト
			海外の文化や社会にチスル理解を深める活動について、英語で述べることができる。					

教科	家庭	科目	家庭総合					
単位数	2単位	教科書	家総 701 家庭総合 自立・共生・創造」東京書籍)					
学年 必 選	1年次 必履修科目	副教材	「LIFE おとなデジタル+」教育図書)					
教科の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人間と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ①人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 ②家庭や地域御世に社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。 ③様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。							
科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ①人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 ②家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 ③様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。							
評価の観点	知識・技能【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【態】					
趣 旨	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。					
履修上の注意	○このシラバスと授業で配布したプリントは、ファイルにまとめておいてください。 ○授業の課題には真剣に取り組ましましょう。 ○提出物は必ず提出してください。被服実習があります。							
年間指導計画								
学期	月	単元・学習内容	学習活動・学習のねらい	時数	知	思	態	評価方法
前期 (第Ⅰ期)		家庭科の学び方 (オリエンテーション)	今の自分の生活、これからの生活への課題等を考える。	1				
	4	第1章 生涯を見通す 1 人生を展望する	自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。	2	○	○	○	・授業の振り返り ・確認テスト ・単元テスト ・調べ学習 ・プレゼンテーション
		2 目標を持って生きる	生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。	3	○	◎	○	
	5	第2章 人生をつくる 1 人生をつくる	生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるよう、さまざまな生き方について理解する。	4	○		○	
		2 家族・家庭を見つめる	よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。 社会制度としての家族や家族と法律を理解する。	3	○	○	○	
前期 (第Ⅱ期)	6	3 これからの家庭生活と社会	誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。 誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造するにはどのような社会を実現すればよいか、考えて実践しようとする。	3	○	◎	◎	
		第9章 経済生活を営む 1 情報の収集・比較と意思決定	自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。	4	○		○	
	7	2 購入・支払いのルールと方法	毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。 販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。	3	◎		○	・授業の振り返り ・確認テスト ・単元テスト ・調べ学習 ・プレゼンテーション
		3 消費者の権利と責任	消費者には権利と責任があることを理解する。消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考える。	4	◎	○	○	
					評価計画			
					知	思	態	
					○	○	○	
					○	◎	○	
					○	○	○	
					◎	○	○	

前期 (第Ⅱ期)	8	4生涯の経済生活を見通す	生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。	2	○	○	○	・授業の振り返り ・確認テスト ・単元テスト ・調べ学習 ・プレゼンテーション ・実技テスト 基礎縫い)
		5家計をマネジメントする	生涯を見通して家計をマネジメントする力をつけるため、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。	1	○		○	
		6これからの経済生活	大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。 どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践しようとする。	1	○	◎	◎	
	9	第10章 持続可能な生活を営む 1持続可能な社会を目指して	持続可能なライフスタイルの実現に向けて、身近な生活と環境との関わりについて理解する。 持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。	2	○	○	○	
		2一人一人の力で社会を動かす						
		ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	3	○	◎	◎	
後期 (第Ⅲ期)		第7章 衣生活をつくる 1被服の役割を考える	私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。	4	○	○	○	・授業の振り返り ・確認テスト ・単元テスト ・調べ学習 ・プレゼンテーション ・実技テスト 基礎縫い)
	10	2被服を入手する	健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。	4	○		○	
		3被服を管理する	手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう管理や手入れの工夫について理解する。環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。	4	◎		○	
	11	5衣生活の文化と知恵	現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために、日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装や世界の民族衣装について理解する。	2	○	○	○	
		4被服を作る	これまで学習してきた被服の機能、素材の知識を応用しながら、目的に合った被服を製作する。 被服実習 実技作品提出	5	○		○	
	12	6これからの衣生活	次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について理解を深める。 単元テスト	1	○	◎	◎	
後期 (第Ⅳ期)	1	第8章 住生活をつくる 1住生活の変遷と住居の機能	生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの生活を支える生活拠点となる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。	4	○	○	○	・授業の振り返り ・確認テスト ・単元テスト ・調べ学習 ・ワークシート ・プレゼンテーション
	2	2安全で快適な住生活の計画	自らの住生活に生かすことができるよう、防災などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。	6	○	○	○	
		3住生活の文化と知恵	日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。	2	○	○	○	
	3	4これからの住生活	持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティ・まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。	2	○	◎	◎	

教科	情報	科目	情報Ⅰ					
単位数	2単位	教科書	情Ⅰ 710 情報Ⅰ」(日本文教出版)					
学年 必 選	1年次 必履修科目	副教材	情報Ⅰ サブノート」(日本文教出版)					
教科の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。 (2)様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。							
科目の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 (2)様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。							
評価の観点	知識・技能【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【態】					
趣 旨	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。					
履修上の注意	1 配布されたプリントは、必ずファイルに綴じましょう。 2 分からない点は、その日のうちに教科担任に質問するなどをしましょう。 3 専門用語がたくさん出てきて戸惑うこともあると思いますが、粘り強く取り組みましょう。							
年間指導計画								
学期	月	単元 学習内容	学習活動 学習のねらい	時数	知	思	態	評価方法
前期 (第Ⅰ期)	4	序章 情報社会に生きるわたしたち	情報について学ぶ意義を理解する。	2			○	授業態度 プリント提出
		第Ⅰ章 情報社会の問題解決 第Ⅰ節 情報の特性 第Ⅱ節 メディアの特性	情報の特性を理解し、観点に分けて考える。 メディアの特性を理解し、目的や状況に応じて、適切なメディアを選択できるようになる。	2	◎	○	○	授業態度 プリント提出 レポート課題 授業課題 単元末テスト
		第Ⅲ節 問題解決の考え方 第Ⅳ節 法の重要性と意義 (知的財産権)	問題を発見する技能を理解し、問題解決に適切に活用できるようになる。 情報社会の中で知的財産権が担う役割を理解する。	2	◎	○	○	
		第Ⅴ節 法の重要性と意義 (産業財産権・著作権)	産業財産権と著作権の意義や情報社会の中で担う役割、重要性を理解する。	2	◎	○	○	
	5	第Ⅵ節 法の重要性と意義 (個人情報)	情報社会において個人情報の取り扱いの仕方を理解する。	2	○	◎	○	
		第Ⅶ節 情報社会と情報セキュリティ	サイバー犯罪の意味や種類を理解する。	3	◎		○	
前期 (第Ⅱ期)	6	第Ⅷ節 情報技術の発展による生活の変化	ソーシャルメディアの適切な活用方法を身につける。	1	○	◎	○	授業態度 プリント提出 授業課題 単元末テスト
		第Ⅷ節 情報技術の発展による社会の変化	情報技術の発達と社会の変化を考える。	3	○	◎	○	
	7	第Ⅸ章 コミュニケーションと情報デザイン 第Ⅰ節 メディアとコミュニケーション	メディアの発達、コミュニケーションの形態や特性を理解する。 情報機器のパーソナル化とソーシャルメディアの関係性を理解する。	3	◎		○	
		第Ⅱ節 情報のデジタル化	アナログとデジタルの違い、2進法と情報量の単位との関係を理解する。 コンピュータによる情報の表現の仕組みを理解する。	7	◎		○	
	8	第Ⅲ節 情報デザイン	情報デザインの考え方を知る。 情報デザインによる問題解決のプロセスを理解する。	2	◎		○	

第Ⅱ期	9	第3章 コンピュータとプログラミング 節 コンピュータのしくみ	コンピュータの基本的な構成を理解する。 CPUによる演算のしくみを理解する。	1	○	◎	○	授業態度 プリント提出 授業課題 単元末テスト
後期 (第Ⅲ期)	10	2節 アルゴリズムとプログラム	アルゴリズムの基本構造を確認し、図や表で表現する方法を知る。 変数、データ型、演算子、関数などプログラムを構成する要素を確認する。 配列など、プログラミングでデータを効率良く利用する方法を理解する。	6	○	◎	○	
	11	3節 モデル化とシミュレーション	モデル化とシミュレーションの考え方を理解する。	4	◎	○	○	
	12	第4章 情報通信ネットワークとデータの活用 節 情報通信ネットワークのしくみ	コンピュータネットワークの構成を理解する。 データ転送のしくみとプロトコルの役割を理解する。 暗号化などの情報セキュリティを高める方法について理解する。	2	◎		○	
後期 (第Ⅳ期)	1	2節 情報システムとデータベース	情報システムが社会をどのように支えているか理解する。 データベースの役割について理解する。	4	◎		○	授業態度 プリント提出 授業課題 単元末テスト
	2	3節 データの活用 (データの収集と整理)	データの活用が問題解決に役立つことを踏まえ、データ収集の方法を理解する。	6	○	◎	○	
	3	3節 データの活用 (数値データの分析・テキストデータの分析)	数値データ、テキストデータの分析方法を理解する。	4	○	◎	○	